

IV. ポール・ラッシュ博士記念奨学金

(1)概要

ポール・ラッシュ博士記念奨学金は、キリスト教の精神にもとづいて、地域、教会、病院などへの奉仕活動を生涯にわたって実践された、元本学名誉教授ポール・ラッシュ博士を記念して設けられました。この奨学金は、キープ協会在米後援会（キープ協会は、地域活動、キリスト教学生活動などの拠点として同博士が設立された機関です）、およびその他の有志によって寄贈された基金とその収益金をもとに支給されるものです。

この奨学金の目的は、ポール・ラッシュ博士の精神や生涯にわたる諸活動を記念し、本学学生の奉仕の精神に基づく諸活動を奨励し、援助することです。

対象・条件等は、次の通りとなります。

1. 本奨学金は奉仕の精神に基づく活動を行う本学学生（個人または団体）を対象とする。「奉仕の精神に基づく活動」とは教育、福祉、環境保護、開発、国際交流、災害復興支援等、様々な領域における社会貢献を目的としたボランティア活動等を指し、活動の現場は国内外を問わない。
2. 営利的活動、学術研究やそのための調査などを目的とした活動は対象としない。
3. 本奨学金の主旨にかんがみ、申請者はポール・ラッシュ博士の生涯やキリスト教における奉仕の精神について学ぼうとする姿勢が求められる。
4. 本奨学金採用者は、後日、キープ協会を訪問し、ポール・ラッシュ博士の精神や活動について学習する。
5. 申請者（代表者）は当該年度の健康診断を受診していなければならない。
奨学金額は、年額合計 70 万円以内（給与奨学金）となります。

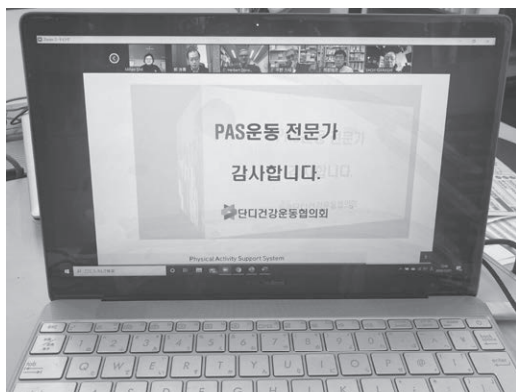
(2)2020 年度募集説明会

開催日時	2020. 10.12(月)12:30～13:00
開催場所	オンライン開催 Zoom 使用
内容	(1)ポール・ラッシュ博士の人物像と立教大学におけるボランティア活動支援 総長室社会連携教育課課長 佐藤一宏 (2)奨学金募集についての説明 総長室社会連携教育課課長 佐藤一宏 (3)質疑応答
参加者数	6名(本学学生4名、職員2名)
今後に向けて	例年5月に開催していたが、2020 年度は、秋学期に延期され、また、オンラインでの開催となった。また、例年募集説明会と併せて、前年度の受給者を招いて、活動報告会も開催していたが、活動報告会は中止となった。 参加者からは、今年度は課外活動が制限されることから、次年度の応募を検討しているという申し出もあった。

(3)ポール・ラッシュ博士記念奨学金

募集期間	2020.10.13(火)～ 10.23(金)15:30
選考委員	平野 方紹(選考委員長、ボランティアセンター長)、五十嵐 正司(チャプレン長)、澤田 直(文学部)、岡部 桂史(経済学部)、ドノヴァン・ハーバード・A(経営学部)
選考日	2020.11. 10(火)18:50～19:30 オンライン開催 Zoom 使用
受給者	シム ミヒ(21 世紀社会デザイン研究科博士後期課程6年次) 36 万円 「PAS(Physical Activity Support)プログラムにて健康長寿社会を目指す」
授与式	2020.12.1(火)12:30～13:00 場所:オンライン開催 Zoom 使用 出席:浅田 豊久(公益財団法人キープ協会理事長)、 桑田 秋光(公益財団法人キープ協会副理事長)、

	<p>郭 洋春(総長)、 平野 方紹(選考委員長、ボランティアセンター長)、 五十嵐 正司(チャプレン長)、 岡部 桂史(経済学部)、 ドノヴァン・ハーバート・A(経営学部、総長室調査役)、 佐藤 一宏(総長室社会連携教育課長)、 阪下 利哉(総長室社会連携教育課)</p>
<p>今後に向けて</p>	<p>2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ボランティア活動を含む課外活動が制限されるなか、例年春学期に募集を行い、6月に授与していた奨学金の採用活動は、秋学期に延期され、12月の授与となった。</p> <p>例年、チラシや学内掲示板での広報を行っていたが、2020年度は、ホームページや学内eポートフォリオ「立教時間」を中心とした広報となった。また、対面で実施していた説明会や授与式も、Zoomを使用したオンライン開催へと変更となった。</p> <p>2020年度は、「PAS(Physical Activity Support)プログラムにて健康長寿社会を目指す」に、36万円の支給となった。</p> <p>この企画は、韓国からの留学生である受給者が主催するNPO「DANDI健康運動協議会」の活動である、高齢者に対する健康増進支援プログラムによって、韓国の健康長寿社会を目指すという取り組みである。今回は、その活動で使用される改良された器具を製作し、活動領域を広げたいというものであった。NPOの活動では、健康増進支援プログラムの実施のみならず、そのプログラムの指導者の育成も行われている。</p> <p>今後の予定は、2021年3月上旬に活動・決算報告書が提出されることになる。また、例年活動終了後に受給者の学生はキープ協会・清泉寮を表敬訪問し、キープ協会関係者に活動の報告を行い、ポール・ラッシュ記念館を見学するなど、交流の機会が与えられる。</p> <p>2020年度は、韓国での活動が対象となり、近年、受給者の活動の場の国際化が進んでいる。</p> <p>オンライン中心の採用活動となったが、オンラインは、時間や場所の制限がないというメリットもあり、新型コロナ対応に関わらず、今後も活用していくことを検討したい。</p>



オンライン授与式の様子